

12年間暮らしたタイから日本の岡山へ「移住」して4回目の正月、運命の年、2017年の正月。今、子どもたちは3歳!、5歳!、10歳!になつたのだけど、帰国してスグ、小学校入学や自宅出産や子育てをしながら描き始めた4冊目の本の原稿が昨年5月、3年がかりで完成了。まだ本になつてないけど、この『一瞬先は、ひかり伝説』の一等最後のことばたちを引用してみよう。

・2017年7月15日から66日間の祭り「たましいのかくじつけん」第三弾
@鬼の城周辺(岡山県総社市)

この12年間、タイ北部山中の「桃源郷」PAI郊外で「村づくり」をしてきました。ここで産まれた長男「太一」が6歳に成った時「小学校に行くなら日本がいい!岡山へ帰ろうよ!」とボクらに宣告したので、この春から、ボクの両親が棲んでいた「桃の郷」総社に移り住み始めました。この長男の名を取つて「太一や」という「なごみ処」をやっています。この「なごみ処」で旅人や地元の人たちが和み交差してゆく中で、再び、岡山での「村づくり」へとふくらみ、変化展開してゆくといいなあ。

この文章は『みちくさ小道』という小冊子からの抜粋で、ボクのプロフィールだ。NPO法人吉備野工房ちみち、から2013年6月に発行され、総社市の町おこしのオフィシャルガイドブックの10冊目に当たる。この総社市の旧商店街の空き家を借りて「太一や」を始めるときに遭遇した(かとうせいこ)さんが理事長をしているNPO法人だ。彼女と出会つてスグ、地元の歴史ある酒蔵でのライブを彼女から依頼されてボクらの関係が、あ!!っと一気に築かれた。全く素生もしらずボクらの音もきいたこともないのに、いきなりライブを宣告され、しくまれたように「新天地」

たのんでくるその大胆不敵さにボクらは喜んだものだ。その後からまたもや町興しの一環で「太一や」でのボクのソロラ語る) BY とろん AT 太一や、というタイトルでこの小冊子にボクの顔写真と太一やの写真入りで紹介されたのだ。

この「なごみ処」で旅人や地元の人たちが和み交差してゆく中で、再び、岡山での

が現れ、そして岡山での「村づくり」への興味と意欲がホントに湧き起つてきているウソのような今ここ)。

2007年7月7日七夕から七週間(49日間)の祭り「たましいのかくじつけん」第一弾@ムーンビレッジ(PAI郊外)5年後、2012年12月1日から108日間の祭り「たましいのかくじつけん」第二弾@NEW MOON VILLAGE(PAIの山

中)

そして同じく5年後、2017年6日間の祭り「たましいのかくじつけん」第三弾@鬼の城周辺(岡山県総社市)。たまたま必然!ボクが66歳!!の

無分別な神様!の、無差別な愛!!が、 今日もこの世に降り注ぐ!!! - 66日間の祭り(たましいのかくじつけん) 第三弾@岡山 -



この三度目の「妄想」が果たして「形になりゆくかどうか。そして今執筆中のこの原稿が第三弾の祭りの前に本になるのかどうか、全てはわくわくドキドキの未定だ。二度ある事は三度ある!そして三度目の正直!! ボクが三度目の結婚で究極点に達したようにこの三度目の「たましいのかくじつけん」がまたもや「形」になりました。それが「言葉」にしたとたん、フシギに「うちゅう」が動き始め、「太一」だった。それが「言葉」にしたとたん、フシギに「うちゅう」が動き始め、「太一」や「5周年を迎えた直後、突如と立ち退きを宣告され、しくまれたように「新天地」

この文章を描いた時点では、岡山での「村づくり」など全く興味も意欲も無くつて何気なく人ごとのように描いてみただけだった。それが「言葉」にしたとたん、フシギに「うちゅう」が動き始め、「太一」や「5周年を迎えた直後、突如と立ち退きを宣告され、しくまれたように「新天地」

この文章を描いた時点では、岡山での「村づくり」など全く興味も意欲も無くつて何気なく人ごとのように描いてみただけだった。それが「言葉」にしたとたん、フシギに「うちゅう」が動き始め、「太一」や「5周年を迎えた直後、突如と立ち退きを宣告され、しくまれたように「新天地」

この三度目の「妄想」が果たして「形になりゆくかどうか。そして今執筆中のこの原稿が第三弾の祭りの前に本になるのかどうか、全てはわくわくドキドキの未定だ。二度ある事は三度ある!そして三度目の正直!! ボクが三度目の結婚で究極点に達したようにこの三度目の「たましいのかくじつけん」がまたもや「形」になりました。それが「言葉」にしたとたん、フシギに「うちゅう」が動き始め、「太一」や「5周年を迎えた直後、突如と立ち退きを宣告され、しくまれたように「新天地」

最後に、今回の題名「無分別な神様!の、無差別な愛!!が、今日もこの世に降り注ぐ!!!」は、ボクと同世代の「いとうたかお」の詞をボクがアレンジしたもので、原文は次の通りです。

子供たちが、唄つているよ
聴いたことも無いメロディーで
無分別な神の、無差別な愛が
今日も 降り注ぐ

人生の折り返し地点に立つ、66歳迫る、呆人どろんより。